

## 小松市吉竹遺跡の絵画土器・山陰系甌形土器と石川県内のL字形石杵の紹介

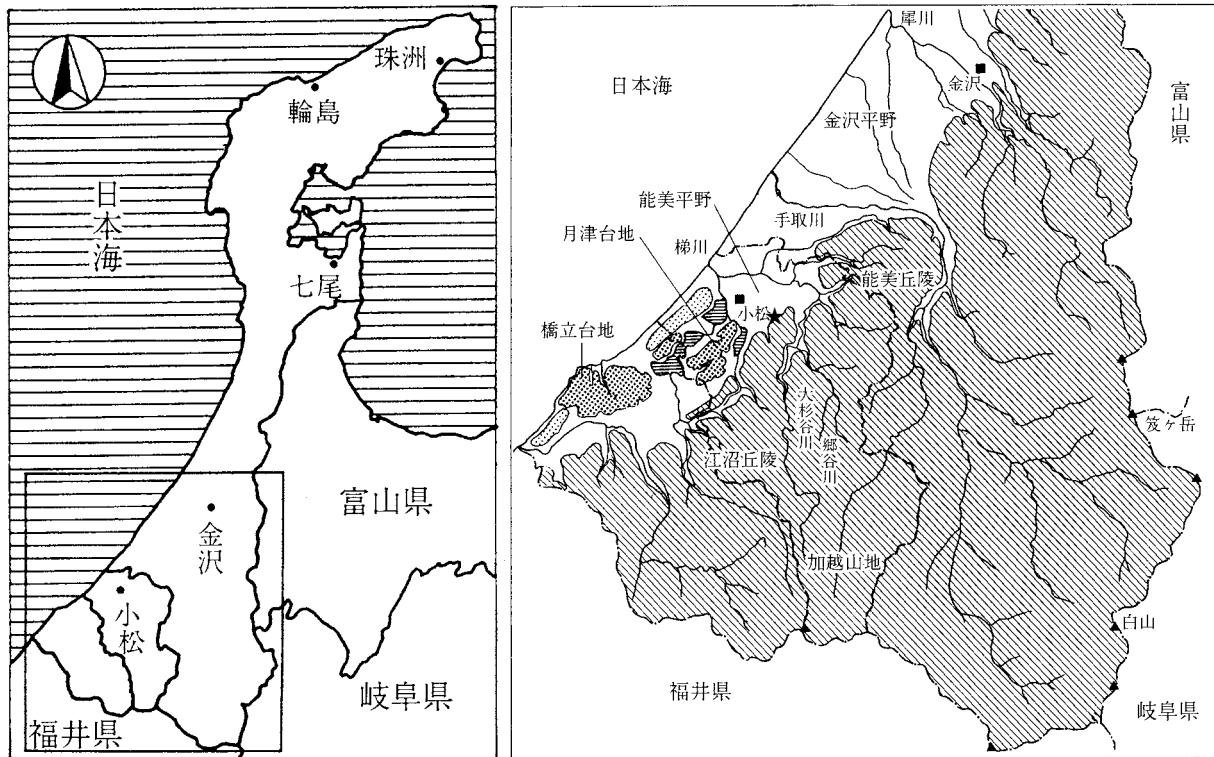
久田正弘

## 1. はじめに

筆者は、情報誌43号にて九州型石錘と山陰系甑形土器の紹介を行った（久田2020）が、下濱貴子氏、林 大智氏から小松市吉竹遺跡の資料が抜けていると指摘を受けていた。また、下濱氏から吉竹遺跡の壺は絵画土器ではないのかとの問い合わせもあり、本稿を書くことにした。また石川県内のL字形石杵の類例も増えたので紹介したい。

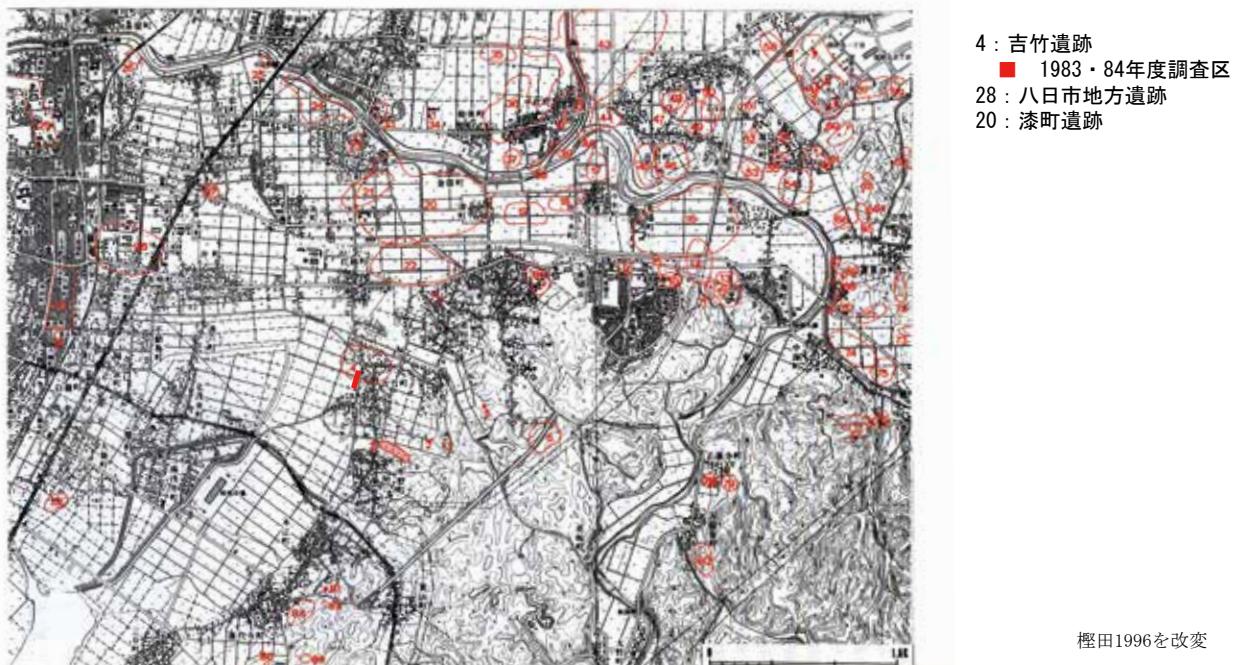
## 2. 絵画土器について

吉竹遺跡は、石川県南部の小松市吉竹町地内の遺跡（第1・2図）であり、昭和58・59年度に発掘調査が行われ、その成果が昭和62年に報告された（栃木ほか1987）。出土土器の多くは弥生時代後期～古墳時代前期なので、第3図1・2もその時間幅の中で位置付けられよう。1は7区土器群16からの出土であり、胴部径9.5cmである。久田1996・2006の際には所在不明の資料の1つであったが、近年所在が判明した。胴部上半に楕円工字状文を2段配し、胴部最大径より少し下側に楕円工字状文と列点文を持つ。列点文は1段と2段があり、2段の部分は工字状文の高さがある。表面には一部に指押さえがあるが、粘土の皺・洗いハケのような削痕・ひび割れなどがあり、文様をとらえにくい。文様は基本的に連弧状の線の集合体で、舟ないし龍の絵画とみる事ができるが、龍の可能性が高いと思われる。

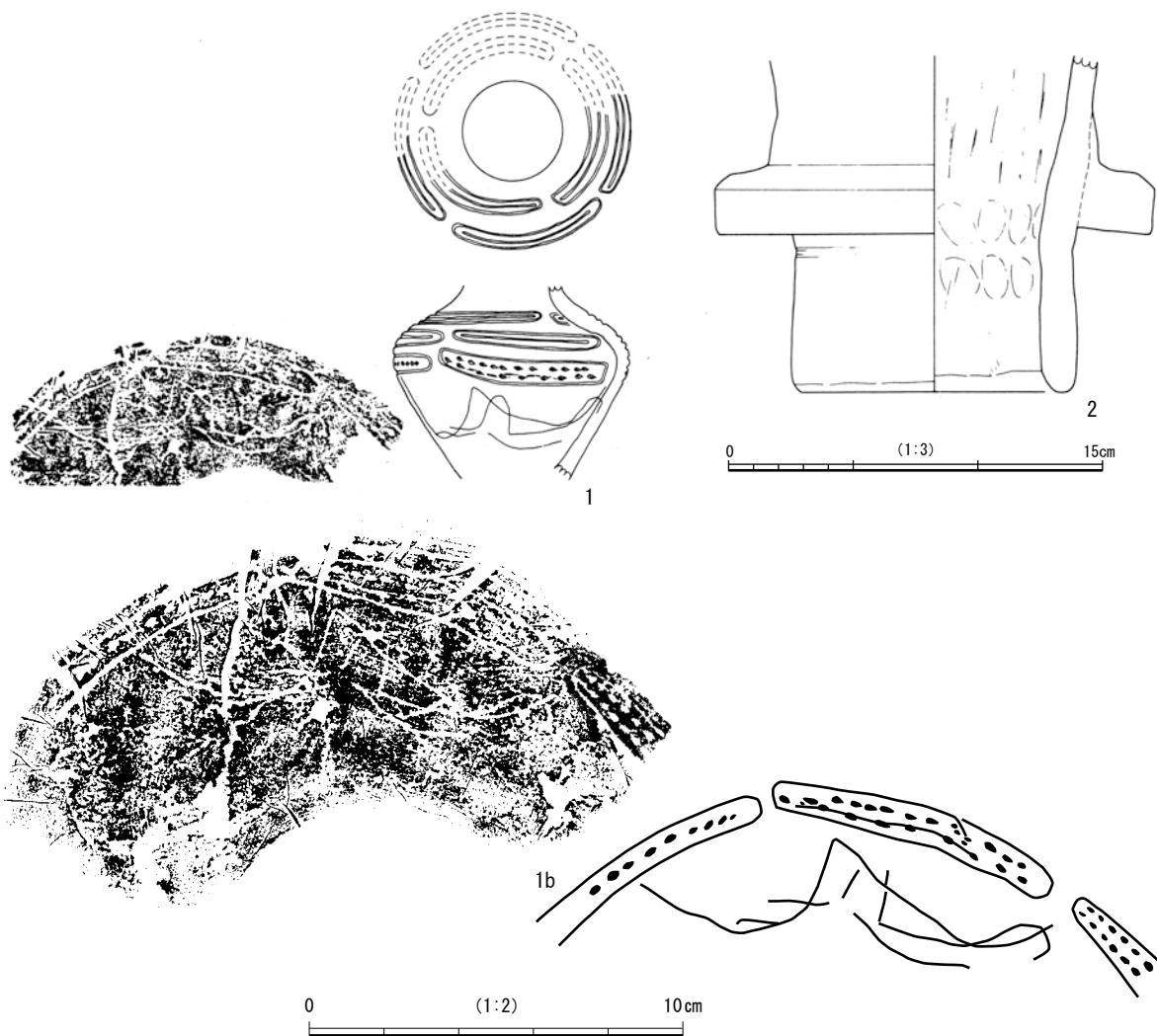


第1図 小松市の位置と地形

樺田1996を改変



第2図 周辺の遺跡



第3図 吉竹遺跡の出土土器



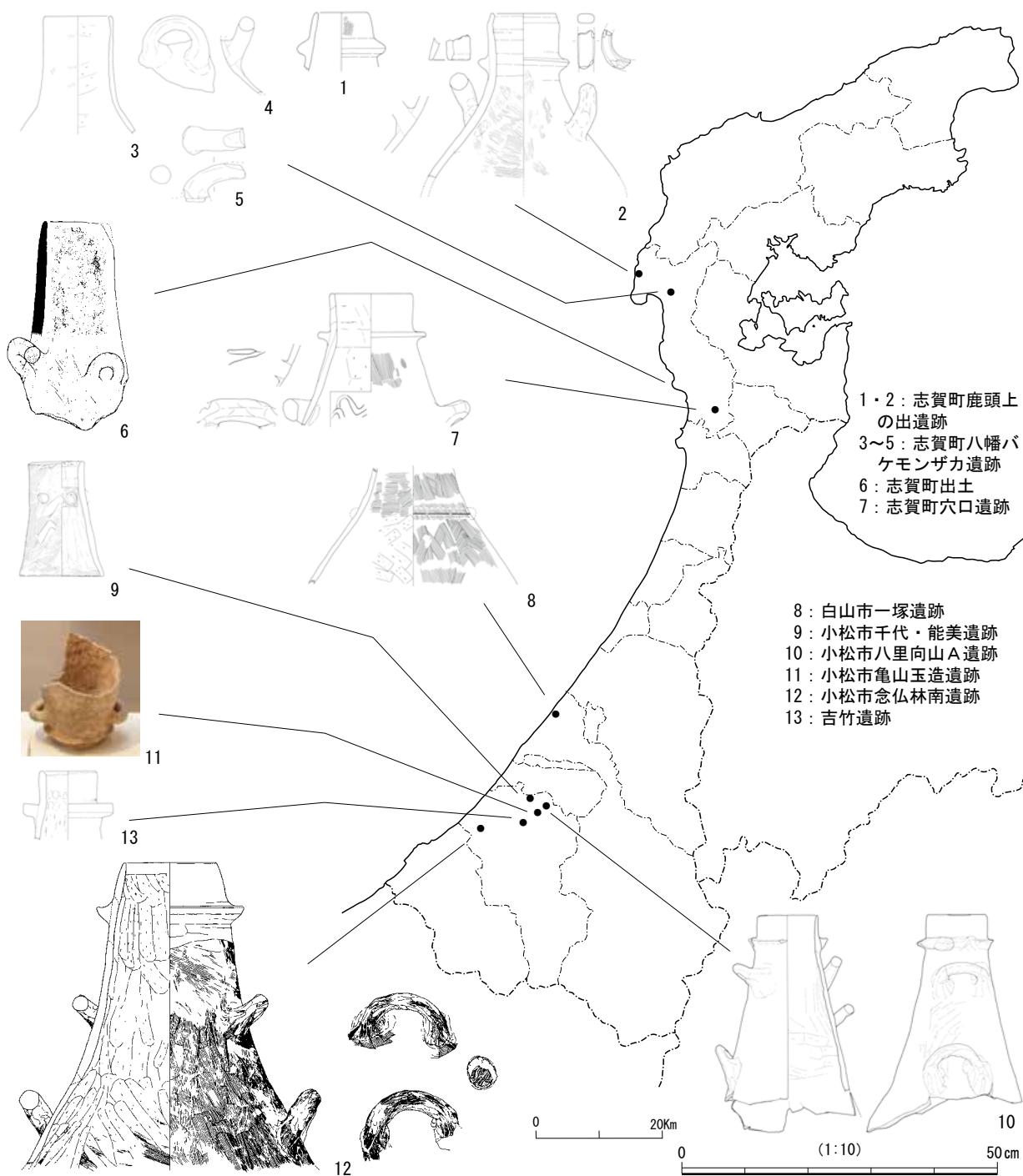
第4図 吉竹遺跡の絵画土器

### 3. 山陰系瓶形土器について

第3図2は、久田1996bの集成時には掲載したが、久田2020で紹介を失念した資料である。9区表採で口径10.8cmというが、所在不明である。突帯の幅が広く、断面が四角いものである。県内の出

土状況を示す第5図が示すとおり、能登半島西岸（旧富来町を含む）志賀町と県南部の小松市で出土が多い。

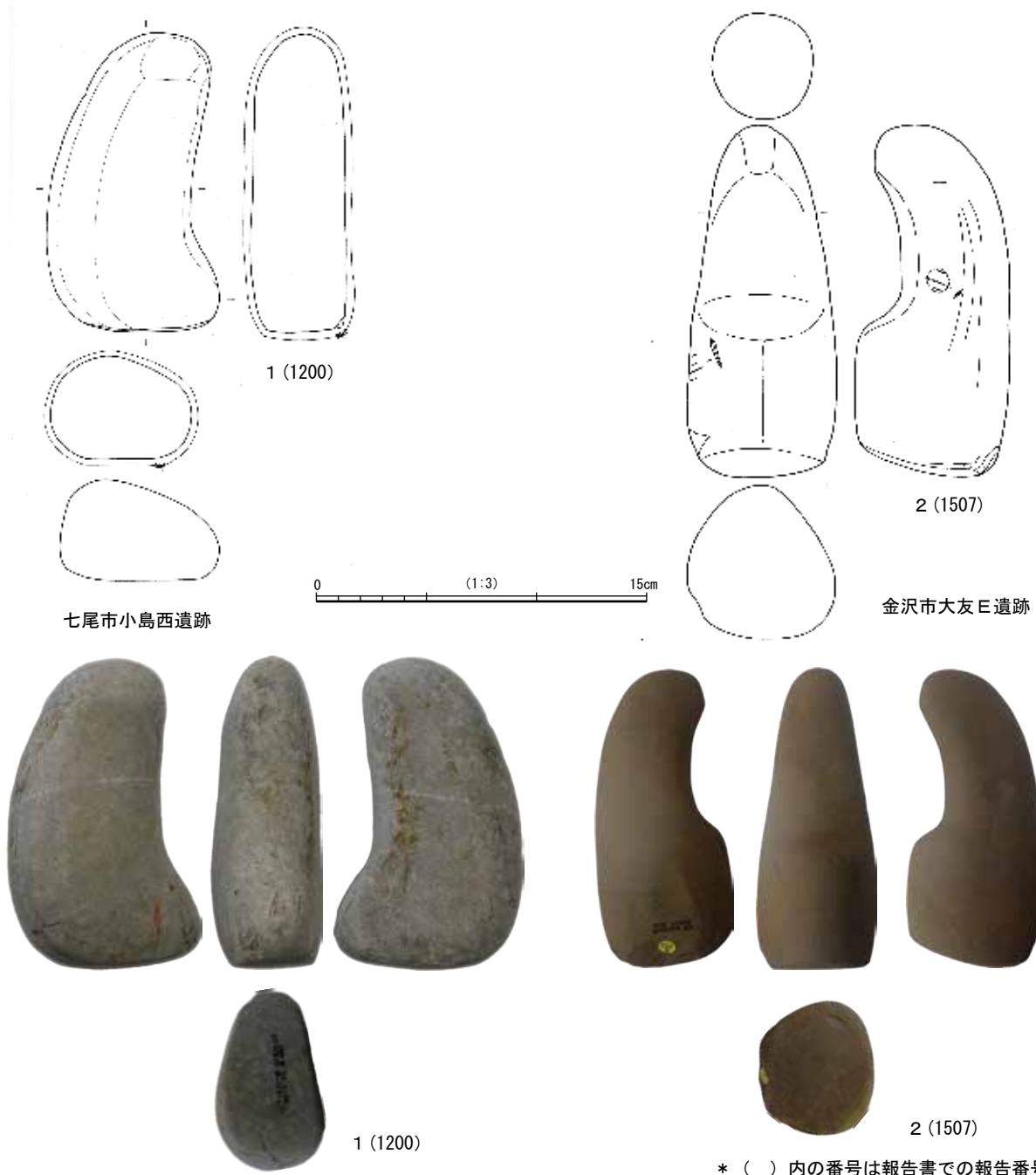
志賀町（旧富来町）鹿頭上の出遺跡1・2（久田ほか1989、弥生時代後期後半～末）、志賀町（旧富来町）八幡バケモンザカ遺跡3～5（松田ほか2000、弥生時代後期後半～末）、志賀町出土地不明6（志賀町役場1974）、志賀町穴口遺跡7（宮川ほか2004）がある。加賀地方では、白山市一塚遺跡8（前田1995、弥生時代後期末）、小松市内には千代・能美遺跡9（林ほか2012、古墳時代前期）、八里向山A遺跡10（望月ほか2004、弥生時代後期末）、亀山玉造遺跡11、念佛林南遺跡12（櫻田ほか1994、弥生時代後期末）、吉竹遺跡13（柄木ほか1987、弥生時代後期～古墳時代前期）である。



第5図 石川県内の山陰系甑形土器

#### 4. 県内のL字形石杵について

北陸地方のL字形石杵は石井2009を受けて、久田2013・2020で紹介したが、現在は福井県2例・石川県3例を確認した。第6図1(1200)は七尾市小島西遺跡の河道(鞍部)の古墳時代～古代の層から出土し、砥石と報告されたものである(大西ほか2008)。右側面を砥石として転用しているようだがL字形石杵であり、長さ136mm、幅78mm、厚さ47mm、重量742g、作業面には水銀朱の痕跡は確認出来ない。第6図2(1507)は金沢市大友E遺跡3区G52 g SD3002(自然河川)下層出土で、独鉛石と報告された(景山ほか2016)。長さ160mm、幅67mm、厚さ70mm、重量51gの灰黄色の砂岩製であり、作業面に赤色顔料を確認した。他に、七尾市万行遺跡B7区・L13区遺構検出面から出土したもののは全長128mm、幅71mm、厚さ55mm、重量656gで、表面は丁寧に研磨され、正面先端が欠損するがL



第6図 石川県内のL字形石杵

字形石杵である。作業面の窪みには水銀朱が多く付着し、欠損部や頭部にも薄く水銀朱が確認される。第6図1・2は、デジカメで撮影したメモ画像であり、本来の色調ではないことを断わっておく。

## 5. おわりに

北陸地方の絵画土器の出土例は少なく、しかもいまだ絵画と認定されていないものもあるだろう。山陰系甌形土器やL字形石杵は、1つでも存在した意義は大きいと思われる所以、ここに再提示を行った。特にL字形石杵（水銀朱精製）が石川県でも出土していることを認識してもらい、石器の再評価を進めることが必要である。本稿によって、遺物の新たな見方が広まれば幸いである。本稿をまとめにあたり、池田 拓、石井智大、伊藤雅文、伊藤好美、楠 正勝、下濱貴子、林 大智氏の協力を得た。

## 参考文献

- 石井智大 2009 「弥生時代L字状石杵の歴史的意義」『古代第122号』早稲田大学考古学会  
大西 顯ほか 2008 『小島西遺跡』石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター  
景山和也ほか 2016 『大友E遺跡—大友遺跡群一』金沢市埋蔵文化財センター  
樫田 誠 1994 『念仏林南遺跡I』小松市教育委員会  
志賀町役場 1974 『志賀町史 資料編第一巻』  
下濱貴子ほか 2016 『八日市地方遺跡II第5～7部』小松市教育委員会  
柄木英道ほか 1987 『吉竹遺跡』石川県立埋蔵文化財センター  
林 大智ほか 2012 『千代・能美遺跡』石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター  
久田正弘ほか 1989 『鹿頭上の出遺跡』富来町教育委員会  
久田正弘 1996 「石川県内の絵画・記号文集成」『石川県埋蔵文化財保存協会年報8－平成8年度』(社)石川県埋蔵文化財保存協会  
久田正弘 1996b 「北陸地方と他地域との関係1」『YAY!』弥生土器を語る会  
久田正弘 2006 「北陸地方の絵画資料」『原始絵画の研究—論考編』六一書房  
久田正弘 2013 「富山県における弥生研究の一視点—資料調査の成果を踏まえてー」『大境第32号』富山考古学会  
久田正弘 2020 「弥生時代における北陸西部と下越地方の交流」『令和元年度史跡古津八幡山弥生の丘展示館企画展関連講演会記録集』新潟市文化財センター  
福海貴子ほか 2003 『八日市地方遺跡I』小松市教育委員会  
前田清彦 1995 『旭遺跡群I 一塚遺跡』松任市教育委員会  
松田睦夫ほか 2000 『富来城跡』富来町教育委員会  
宮川勝次ほか 2004 『穴口遺跡・穴口貝塚』石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター  
望月精司ほか 2004 『八里向山遺跡群』小松市教育委員会